

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

秋の味覚やステージを楽しむ

比和やまびこ祭

10月28日、第15回比和やまびこ祭が“比和の里、ひびけこの声、心意気”をテーマに、比和総合運動公園で開催されました。

地元の比和中学校の生徒たちが県指定無形民俗文化財の『比和牛供養田植』を雛子に合わせて披露。この祭りの名物となった「そば食い競争」では、必死にそばを口に入れる選手たちに、「がんばれ」「もっと速く食べて」と多くの声援が送られていました。

来場者は新鮮な農産物や加工品、比婆牛など比和の味覚を味わいながら、太鼓の競演や庄原乱舞、歌謡ショーなどを楽しんでいました。



そば早い競争



坂本冬美そっくりショー



漬物コンテスト

障害者の社会参加を目指す

障害者ふれあいランド

県内の福祉施設に入所・通所している障害者の社会参加を目指して、「2007広島県障害者ふれあいランド」が9月28日から30日の3日間、庄原市ふれあいセンターとジョイフルショッピングセンターで行われました。

今年で21回目となるこのイベントは、庄原市で初めて開催され、延べ約5,800人が来場し、障害者に対する理解を深めました。

ふれあいセンターではステージ発表が行われ、福祉施設入所者・通所者の皆さんが、銭パイやソーラン節にあわせた踊り、合唱など多彩な芸を披露し、観客から盛大な拍手が送られました。また、県内の障害者が作業活動などで製作した書道作品、絵画、陶器、木工品、着物など約600点の展示があり、多くの観客が見入っていました。

ジョイフルでは、県内28か所の授産施設や作業所で作られたケーキ、さをり織り、ピースアクセサリーなど約7,000点の作品が展示・即売され、家族連れや買い物客でにぎわいました。



庄原もみじ園の銭パイ



障害者の作品のすばらしさに感心する来場者

歌謡ショーや特産品販売でにぎわう

ふれあい東城まつり・庄原「みのりの祭典'21」

第25回ふれあい東城まつりが10月20日・21日の両日、今年は庄原「みのりの祭典'21」と共に開催され、例年の3倍以上の来場者でにぎわいました。東城の産業・文化の祭典に農業の祭典が加わり、メイン会場となった東城小学校グラウンドには、地元農産物や加工品をはじめ様々な特産品などの屋台テントが並びました。

20日は、東城中学校吹奏楽部や保育所の「わんぱくお通り隊」などが元気にオープニングを飾り、メインイベントの「鳥羽一郎オンステージ」では、市内外から多くの方が集まり、「兄弟舟」などの歌と楽しいトークに会場が盛り上がりました。また、展示広場や「ふれあいの夕べ」では、出演者が日頃の練習の成果を発表しました。21日のステージは、和太鼓のパフォーマンスやジャズダンスが華やかに会場を魅了し、氷川きよしものまねショーは、ヒット曲を楽しみました。



「ちびっこ相撲」に大きな声援



塩原の大仙供養田植



歌謡ショーを楽しむ多くの人

収穫・スポーツ・芸術の秋を満悦

西城ふるさと祭に約3,000人

秋の味覚を楽しむ「西城ふるさと祭」が10月21日、西城球技場で開催され、アトラクションや特産品販売、バザーなど、約3,000人の来場者でにぎわいました。

午後からは、西城地域の自治振興区対抗スポーツ大会を開催。大縄跳びと玉入れに力のこもった声援が送られ、大佐地区自治振興区「グリーンピア大佐村」が優勝しました。



18自治振興区が参加した大縄跳び



生涯学習フェスティバルで社交ダンスを発表

西城ふるさと祭にあわせて、生涯学習フェスティバル「であいとふれあいフェア」が20日に開催され、日頃の活動の成果を発表。また、「西城町美展」が20～22日に西城公民館で開催されました。

行列のできる講演会

住田弁護士が男女共同参画のあり方を語る

男女共同参画社会づくり講演会が10月11日、庄原市民会館で開催されました。

講師がテレビでおなじみの住田裕子弁護士とあって、開場前から行列ができ、会場はほぼ満席になりました。住田さんは、「テレビ番組『行列のできる法律相談所』の人気は、世の中にいろんな意見や価値観があって、その多様性といったものが受け入れられているから。男女で役割を決め付けることにとらわれる必要はないと考える人が増えてきた」など、男女共同参画のあり方について、自身の経験や現状のデータを絡めながら、分かりやすく語りました。

最後に「年齢や性別に関係なく、一人一人がそれぞれの個性を輝かせて『世界に一つだけの花』として、がんばりましょう」と来場者に呼びかけました。



テレビ番組の裏話も含めて楽しく語る

東城の将来像を熱く語る

東城まちなみ再生シンポジウム



町中心部の再生について意見を交わすパネリスト

9月22日、東城の中心部活性化に向けて考える「東城まちなみ再生シンポジウム」が開催され、地元住民をはじめ広島市などから約120人が参加しました。

第1部は、東城出身の映像作家、多摩美術大学准教授の佐々木成明さんが「私が訪れたそれぞれのまちなみ」をテーマに、幼かった時の思い出のまちなみや世界各地のまちづくりなどを事例にあげて講演しました。

第2部は、県立広島大学教授の野原建一さんをコーディネーターに、東城町商工会の谷会長をはじめとする4人のパネリストが意見を交換しました。「交流人口の増加」や「古き良き建造物を活かすまちづくり」など、それぞれの目から見た東城の将来像を熱く語り、聴講した来場者はわが町に思いをめぐらせていました。

宮澤賢治作品を読み語る

本小学校「読書のつどい」

読書週間（10月27日から11月9日）を前に、10月18日、本小学校で岩手県出身の語り手、吉田路子さん（呉市在住）を招き、読書のつどいが開催されました。

本小学校の全校児童のほか、峰田小学校3・4年生、保護者など33人が参加。幻想的に飾られた教室で、吉田さんは宮澤賢治の作品「注文の多い料理店」、「雨ニモマケズ」をちぎり絵とともに、感情を込めて読み語り、子どもたちを宮澤賢治の不思議な世界へと引き込みました。

「山ねこ母さん吉田路子」として、数多くの童話や詩を残した宮澤賢治の作品を広く紹介している吉田さんは「本を読むことで自分の世界が広がる」と話していました。



写真右が吉田路子さん

動物にふれあう催しいっぱい

どうぶつ愛護のつどい

庄原市と県は動物愛護週間中の9月23日、市総合体育館などで、動物の愛護と適正な飼養について関心と理解を深めてもらおうと「どうぶつ愛護のつどい」を開催しました。

開会式で絵画コンクール表彰式が行われ、庄原市長賞を受賞した松村浩太郎くん（東城小3年生）をはじめ65人が表彰されました。

元ニッテツグラウンドでは、ミニ動物園や動物ふれあい広場など、身近に小動物とふれあえる催しが行われ、親子づれなどの来場者でにぎわいました。



ロバにえさをやる子どもたち



庄原市長賞を受賞した松村くん

病院で心と体のリフレッシュ

西城市民病院合同運動会

10月5日、第9回西城市民病院合同運動会が、ひまわり病棟グラウンドで開催されました。

入院患者のリハビリの一環としてスタートした運動会は、通所利用者や家族、ボランティアが加わり合同運動会に発展。毎年多くの参加者に喜ばれ、今年も約150人が参加しました。

競技はパン食い競争や玉入れ競争、西城保育所やしあわせ館の踊りなどが行われ、参加者は楽しい1日を過ごしました。また、園児からおじいちゃん、おばあちゃんへプレゼントが手渡されると、「うれしくて、涙が出てきました」と感激していました。



玉入れ競争を楽しむ参加者

親子で学ぼう土砂災害

板橋小が教育講演会

板橋小学校で10月1日、PTA教育講演会「みんなで考えよう土砂災害」が行われました。

災害について親子で学ぼうと、同校のPTA研修部が企画。土砂災害の原因を解析している（社）建設コンサルタンツ中国支部が、スクリーンを使って災害の種類や学校近くの危険個所を紹介したり、クイズ形式で問題を出したりして、災害の恐ろしさや災害に対する備えを呼びかけました。

災害に関するクイズで、広島県は土砂災害の危険個所が全国で一番多いと知った児童とその保護者は大変驚いた様子で「身近なところに危険区域はあるし、これからもっと災害に気をつけたい」と話していました。



班ごとに〇×クイズに答える

勇壮な和太鼓の競演

TAIKO交流会

市内の各地域で演奏活動をしている和太鼓グループが一堂に会し、交流を通して技術を磨き、親睦を深めようと「第6回TAIKO交流会」が9月30日、比和文化会館で開催されました。

今年は西城川太鼓、湯川雪山太鼓、不老仙太鼓、総領響心太鼓、口和備神太鼓、葦嶽太鼓、要害太鼓、永江太鼓、吾妻太鼓の9団体が参加。比和地域内外から、出演者を含め約400人の観客が勇壮な太鼓の演奏を楽しみました。

毎年、楽しみに訪れるファンも多く、来場者は「それぞれに地域性のある演奏が楽しめて良かった」「リズムカルに心に響く太鼓の音は、いつ聴いてもいいものですね」と話していました。

この大会は出演者自らが実行委員会を組織し、各地域の持ち回りで開催しています。実行委員会事務局の森田さんは「満席の会場に私たちもやりがいがありました。これからも太鼓の楽しさを多くの人たちに伝えていきたい」と話していました。



迫力ある永江太鼓



全員参加の豊年太鼓

ひと味違う本場の味

楽しさ広がる世界の料理



中国料理を学ぶ参加者

世界の料理講座（全5回）が口和老人福祉センターで10月7日から始まりました。

この講座は、海外出身者が講師となって、自国の料理を市内在住者に紹介するものです。第1回目は、講師に中国山東省出身、庄原市在住の蔡曉輝（さいぎょうき）さんを迎え中国料理を学習しました。

料理は地元口和町の野菜で作った「チンジャオロース」「マーボー豆腐」など馴染みのあるメニュー。仕上げに細く刻んだキュウリを入れたり、豚肉をかたまりから調理したりと、ひと味違うおいしさに参加者は感心しながら、楽しく中国料理を勉強していました。

今回は11月10日（土）のルーマニア料理で、これからインド料理やフィリピン料理など各国自慢の料理を学びます。

実りの秋を祝い、地域の未来を語る

和南原自治振興区が秋穫祭

和南原自治振興区の第1回秋穫祭が10月14日、和南原地区コミュニティセンターで開催され、区民など約300人が参加しました。

農産物の品評会では、特産の高野大根をはじめトマト・ネギ・里芋など丹精こめて栽培された自慢の野菜が並び、上位入賞者を表彰。参加者はもちつき・バザー・大鍋のふるまい汁、ヤマメの塩焼きと、和南原の味覚を楽しんでいました。

ステージでは、地元和南原こども会による銭太鼓と比和町の吾妻太鼓の迫力ある演奏に大きな拍手が送られました。イベントの最後は参加者全員でばい流しを踊り、地域の輪と団結を誓っていました。



子どもに本物の舞台芸術を

人形劇団プーク公演

本物の舞台芸術に触れ、豊かな情操を養う「本物の舞台芸術体験事業」が10月9日、粟田小学校で行われ、粟田・小奴可・内堀・帝釈小学校と田森保育所の児童・園児約90人が「人形劇団プーク」の公演を観賞しました。

身近にあるダンボールが主人公となり、やさしい音楽によって旅にでる物語「ダンボールくん」と、熊の母子の温かいふれあいを中心に5つのエピソードから構成された「くまの子ウーフ〜ふしぎがいっぱい〜」の2公演が行われました。

粟田小学校の5・6年生5人が、各々に製作した人形を手に共演し、ちょうちょう役で出演した6年生の名越美咲さんは「動きの細かいところまで決めてあることや、セットの作りにびっくりしました」と話していました。



プロと共演する子どもたち

公園の完成を神楽で祝う

“なかつくに公園”開園記念奉納神楽

10月7日、総領町稲草で、稲草西自治振興区と田総の里自治会・意加美神社が共催し、なかつくに公園開園と、灰塚ダム建設で移転した意加美神社の遷宮10周年を記念して奉納神楽が行われました。

当初は、観客の皆さんに公園の雰囲気味わってもらおうと、なかつくに公園の「三日月舞台」に特設舞台を設置して行う予定でしたが、あいにくの雨となり、田総の里スポーツ公園内での開催となりました。

それでも、庄原市外からも観客が来られ、北広島町の山王神楽団が華やかな衣装で勇壮に舞う羅生門や、おなじみの八岐大蛇などの神楽を楽しみました。また、神楽の合間には、観客の子どもや、地元の方が羅生門の衣装と鬼の面をつけ、衣装の重さを感じながら、舞台上で舞う体験をしました。



山王神楽団（北広島町）

子どもの交通事故を防止

交通安全看板を配布

全国的に子どもに関わる悲惨な交通事故が多発していることから、庄原地区交通安全協会口和分会（岩滝篤行分会長）が、子どもを交通事故から守ろうと「子供飛び出し注意」の看板70枚を町内2つの保育園・保育所に配布しました。



保育所では、園児の各家庭に配り、さっそく保護者は、自宅に近い道路沿いに設置して、ドライバーに注意を呼びかけています。

口和地域では、尾道・松江自動車道の工事が本格化し、大型車両の通行が激しくなっています。子どもたちが安全で安心して通園・通学できるよう、一人一人が安全運転に心がけましょう。



みどり園保育所に配布された看板